

ウィアグリ シンガポールへ日本食冷凍品を販売 5年後輸出額5億円目指す



▲冷凍フルーツ大福



▲冷凍押し寿司



▲冷凍漬け丼セット

販売予定の冷凍食品

IT企業のテックファームホールディングス(東京都新宿区)のグループ会社で、農水産物流通ソリューションを手掛けるWe Agri(ウィアグリ、同中央区、岩藤健二社長)はこのほど、「日本食冷凍ミールキット販売プロジェクト」を始めた。冷凍押し寿司や冷凍漬け丼セット、冷凍フルーツ大福などの日本食冷凍食品をシンガポールに輸出、販売を予定する。

同プロジェクトは、新型コロナウイルス禍の海外市場の変化や新たな需要に対応し、コンソーシアムを形成して行う海外展開の取り組みの実証やPR活動などを支援する農水省の「令和2年度海外フードバリューチェーン再構築緊急対策事業」に採択されている。同社は旅行代理店のJTB(同品川区)とABC Cooking Studioグループ企業のABCモール(静岡市)とコンソーシアムを組み、地域・生産者の参画促進や輸出

入業務、3社が保有する越境電子商取引(EC)サイトでの販売など、原料供給から消費地に至るフードバリューチェーンを構築。5年後の日本の冷凍食品・冷凍ミールキットの輸出額5億円を目指す。

新型コロナウイルスの影響から、海外市場でも中食や通販の需要が拡大。新型コロナウイルス流行以前のインバウンド拡大で「本物の日本食を手軽に食したい」といったニーズが高まっていたことから、日本の冷凍食品や冷凍ミールキットの販売・プロモーションに注力する。輸出先のシンガポールにおける日本食は高級食品・食材のイメージが強く、外食を中心にメニューゲットは富裕層だったという。

コンテナへの混載や賞味期限の長さを生かしたまとめ買いによる物流コスト低減により、中間層を含めてターゲットにング。日本食の消費拡大を目指す。

